

森町地域公共交通計画 抜粋 変更（案）

令和7年6月

森町内公共交通網の将来像

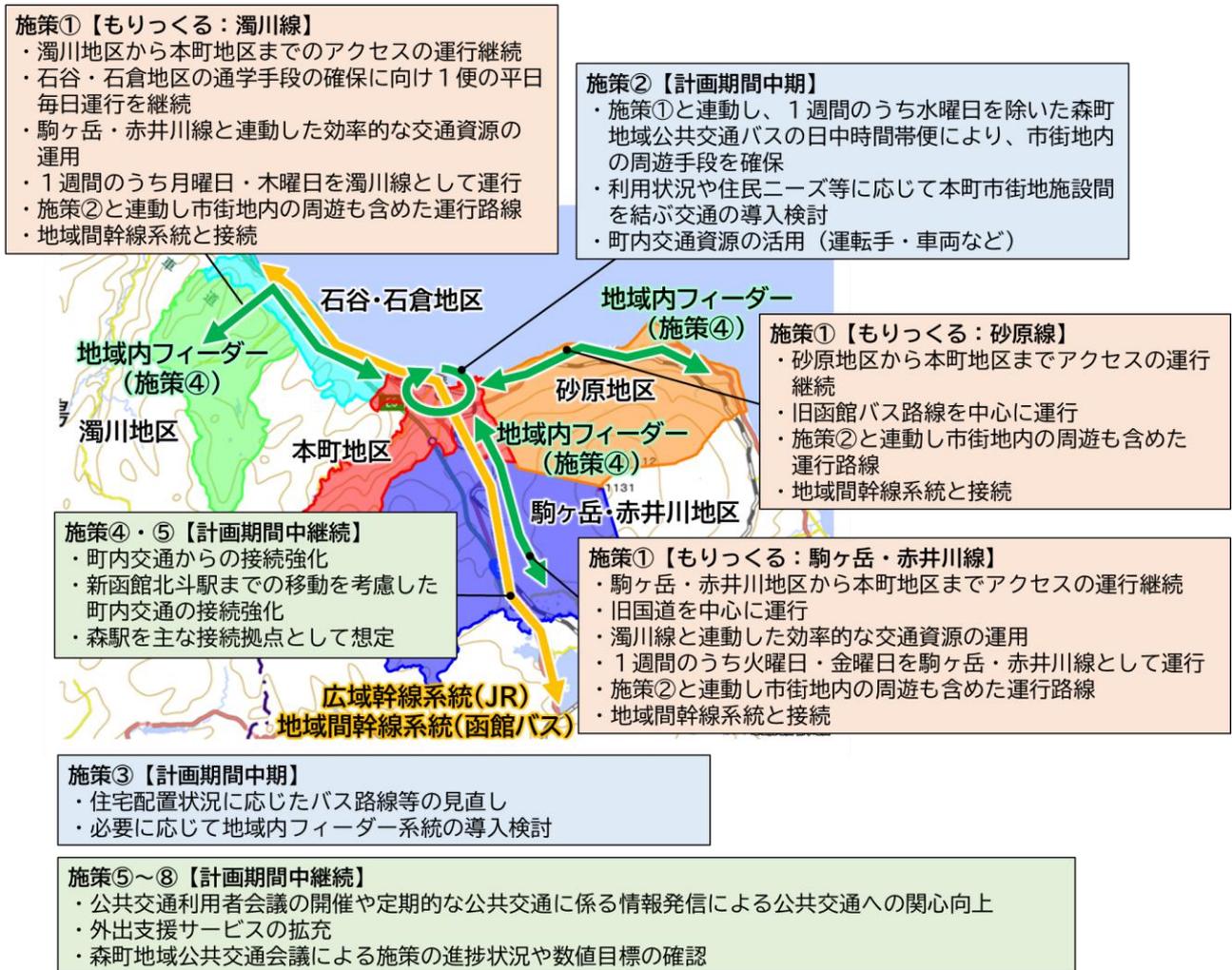


図 4-1 森町地域公共交通網の将来像

表 4-1 補助系統に係る事業及び実施主体の概要

実施主体	路線・系統名等	起点	経由地	終点	道路運送法の事業許可区分	運行態様	補助事業の活用
JR北海道	広域幹線系統 (JR函館本線)	運行路線によって多様なため省略			-	路線 定期運行	-
函館バス	地域間幹線系統 (路線バス)	運行路線によって多様なため省略			4条乗合	路線 定期運行	運行路線によって多様なため省略
森町	もりっくる 濁川線	新栄館前	石倉	森町ショッピングセンター前	79条自家用 有償運送	路線 定期運行	地域公共交通確保維持事業 (フィーダー補助)を活用して持続可能な運行を目指す
森町	もりっくる 駒ヶ岳・赤井川線	からまつ入口	駒ヶ岳駅前通	森町国保病院前	79条自家用 有償運送	路線 定期運行	地域公共交通確保維持事業 (フィーダー補助)を活用して持続可能な運行を目指す
森町	もりっくる 砂原線	砂原東3丁目	尾白内	森町国保病院前	79条自家用 有償運送	路線 定期運行	R8.4月から、地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用して持続可能な運行を目指す

第5章 目標に基づく施策内容の整理

本章では、森町地域公共交通計画の基本方針を実現するための、目標に基づく事業の具体的な内容等を整理します。

5-1 施策内容の整理

5-1-1 目標1 町民主導で考える利便性の高い町内公共交通網の構築

施策①：生活圏となっている町内施設や地区内拠点までのアクセス性を向上させる交通の継続運行					
施策概要	<p>令和4年10月11日から実証運行を開始した森町地域公共交通バスは、交通空白地域及び不便地域における、町内施設や各地域の拠点までの移動を支援する公共交通として重要であるため、森町地域公共交通バスの運行を継続します。</p>				
施策実施イメージ	<p>令和4年10月11日から実証運行を開始した森町地域公共交通バス(通称:もりっくる)は、濁川地区(石谷・石倉地区の通学を含む)や駒ヶ岳・赤井川地区、砂原地区から本町市街地を結ぶ移動手段として重要な公共交通であるため、見直し等を実施しながら、運行継続を図ります。</p> <p>また、継続的に、かつ安定した運行事業を目指して、町や事業者の運営努力に加え、地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統補助)を活用した運行事業の安定化の必要性があるため、森駅で地域間幹線系統と接続する補助対象フィーダー系統として位置づけます。</p> <p>なお、運行内容については、施策②と連動した本町市街地における主要施設を結ぶ役割も担っているため、市街地の周遊箇所も含め、継続した検討・見直しを実施します。</p>				
実施エリア	森町				
実施主体	交通事業者、森町				
事業実施スケジュール	令和4年度(2022年)	令和5年度(2023年)	令和6年度(2024年)	令和7年度(2025年)	令和8年度(2026年)
	△○	●	●	●	●



図 5-1 実証運行時の周知用チラシ

△：検討、○：適宜実施、●：実施

施策②：本町市街地における主要施設を結ぶ交通の継続運行					
施策概要	<p>本町市街地内の病院や買い物施設、森駅等へ移動しやすい交通手段の整備に向け、施策①と連動した、もりっくるの運行を継続します。</p>				
施策実施イメージ	<p>もりっくるにおける本町市街地の周遊箇所について、施策①と連動して、詳細の運行内容について地域とともに検討します。</p> <p>本施策は施策①と連動して、見直し等を実施しながら、運行継続を図ります。</p>				
					
<p>図 5-2 森町地域公共交通バスにおける本町市街地の運行ルート</p>					
実施エリア	本町市街地				
実施主体	交通事業者、森町、地域住民				
事業実施スケジュール	令和4年度 (2022年)	令和5年度 (2023年)	令和6年度 (2024年)	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)
	△○	△●	△●	△●	△●

△：検討、○：適宜実施、●：実施

施策③：移動における住民ニーズに即した町内バス路線の見直し					
施策概要	現在の住民ニーズとの整合性を図るべく、町内バス路線網やバス停留所位置の見直しを実施します。				
施策実施イメージ	<p>人口変動や高齢化に伴い、バス停からの距離や居住形態などが変化していることに加え、生活関連施設（商業・医療・公共施設等）の立地状況の変化に伴い、運行当初に設定されたバス路線と住民ニーズのミスマッチが発生していることが想定されます。</p> <p>見直しにあたっては、JRや他公共交通との乗り継ぎを考慮したダイヤの検討を行うほか、地域全体の公共交通の利便性向上に努めます。</p>				
実施エリア	森町				
実施主体	交通事業者、森町、地域住民				
事業実施スケジュール	令和4年度 (2022年)	令和5年度 (2023年)	令和6年度 (2024年)	令和7年度 (2025年)	令和8年度 (2026年)
	△○	△○	△●	△●	△●

△：検討、○：適宜実施、●：実施

第6章 施策の持続的な実施に向けた目標値設定

本章では、施策の持続的な実施に向けた評価指数及び目標値を整理するとともに、目標値の測定方法や評価のスケジュールを整理します。

6-1 施策と評価指標の関係

本計画に基づき実施していく施策とその施策の推進状況を確認するための評価指標との関係性を以下に整理します。

表 6-1 施策と評価指標の関係

評価指標名		施策番号								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
評価指標①	タクシー利用者数								○	○
評価指標②	函館バス地域間幹線系統の利用者数	○	○	○	○	○				○
評価指標③	もりっくるの利用者数	○	○	○	○		○	○		○
評価指標④	もりっくるの運行に係る費用	○	○						○	○
評価指標⑤	もりっくるの収支率	○	○						○	○
評価指標⑥	意識醸成の場や機会の創出回数						○	○		○
評価指標⑦	町民への周知状況							○		○
評価指標⑧	利用者会議におけるニーズ把握の状況						○			○

1-1 評価指標及び数値目標

本計画及び施策の推進状況を確認するため、以下の目標値を設定し、計画及び施策の進捗確認を行います。

表 6-2 評価指標及び数値目標

評価指標	単位	現況値	目標値				
			令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)
タクシー利用者数	人/年	100,737 (※1)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
函館バス地域間幹線系統の利用者数	人/年	100,142 (※2)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
もりつくるの利用者数	人/年度	2,501 (※3)	2,600 以上	2,600 以上	2,600 以上	6,600 以上	6,600 以上
もりつくるの運行に係る費用	千円/年度	11,918 (※3)	8,000 以下	8,000 以下	8,000 以下	19,000 以下	19,000 以下
もりつくるの収支率	%/年度	5.2 (※3)	5.0 以上	5.0 以上	5.0 以上	5.0 以上	5.0 以上
意識醸成の場や機会の創出回数	回/年度	0	2	2	2	2	2
町民への周知状況	-	-	周知の実施	周知の実施	周知の実施	周知の実施	周知の実施
利用者会議等におけるニーズ把握の状況	-	アンケート意見交換会での把握	ニーズ把握の実施	ニーズ把握の実施	ニーズ把握の実施	ニーズ把握の実施	ニーズ把握の実施

※1：令和3年1月～令和3年12月の数値を現況値としました

※2：令和3年補助年度（令和2年10月～令和3年9月）の数値を現況値としました

※3：令和6年補助年度実績を現況値としました

1-2 数値目標の測定方法

数値目標の評価に必要なデータの測定方法は、以下の通りです。

表 6-3 数値目標の評価方法

評価指標	データ測定方法	調査手法概要等
タクシー利用者数	交通事業者からの提供データ等による把握	運行事業者データにて把握
函館バス地域間幹線系統の利用者数	運行実績から把握	運行事業者データにて把握
もりっくるの利用者数	運行実績から把握	運行事業者データにて把握
もりっくるの運行に係る費用	運行実績から把握	担当課で把握
もりっくるの収支率	運行実績から把握	運行事業者データにて把握
意識醸成の場や機会の創出回数	取組実施回数のカウント	交通会議で把握
町民への周知状況	実施状況の確認	担当課で把握
利用者会議におけるニーズ把握の状況	実施状況の確認	担当課で把握

1-3 数値目標の評価スケジュール

数値目標の評価スケジュールは、以下の通りです。

表 6-4 数値目標の評価スケジュール

評価指標	令和4 (2022)	令和5 (2023)	令和6 (2024)	令和7 (2025)	令和8 (2026)
タクシー利用者数	○	○	○	○	○
函館バス地域間幹線系統の利用者数	○	○	○	○	○
もりっくるの利用者数	-	○	○	○	○
もりっくるの運行に係る費用	-	○	○	○	○
もりっくるの収支率	-	○	○	○	○
意識醸成の場や機会の創出回数	○	○	○	○	○
町民への周知状況	○	○	○	○	○
利用者会議におけるニーズ把握の状況	○	○	○	○	○